

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次実施計画との関連 有・無
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	高齢者向けウォーキングの推進事業						
1-2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	健康課	係	健康推進係	評価票作成者 成人保健担当係長 二宮真由美
1-3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」			基本施策	成人・老人保健	コード 2 1 1
	項	健康			単位施策(中)	高齢者の健康づくりの推進	コード 2 1 1 4
					単位施策(小)	高齢者向けのウォーキングの推進	コード 2 1 1 4 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	高齢者のウォーキング実施者		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	高齢者が健康を維持できるようにするための活動に取り組む		
1-5 事務事業の内容	健康維持のための活動としてウォーキングを普及するように努める。個人的に実施するウォーキングのほかに、ウォーキンググループを中核として毎月ウォーキングを実施し、ウォーキングに取り組む高齢者の増加を図る。						

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	身近なところでウォーキングができる条件作りを、ウォーキング推進グループと協働して毎月実施する。	高齢化が進行し前期高齢者の健康志向活動の増加が見込まれる。	日常的にスポーツに取り組める場所づくりが求められている。		
平成19年度	ウォーキング推進グループが主体的に実施できるように支援する。	自分にあつた方法でウォーキングを生活に取り入れてる高齢者が増加している。ウォーキングの正しい知識の普及が必要。	身近な場所で気軽にからだを動かせる場所や仲間を求めている。仲間がいることで継続していくことができる。			
平成20年度						
平成21年度						
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	1日平均ウォーキング時間が30分未満の人の割合(60~69歳)	33.0(%)	31.0(%)	場所も用具も不要なウォーキングが日常的な運動と認識され、健康維持のため30分以上実施することが望ましいが、実施していない人の数	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	事務事業成果指標										
	活動実績 a(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
直接事業費 b(千円)	442	470									
人件費 c(千円)	20	0									
合計コスト d(b+c)(千円)	410	426									
単位コスト d/a(千円)	430	426									
	1人当たり 1	ウォーキング参加者 1人当たり 1	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 人件費 133時間 3,200円×133時間=425,600円 (2-1-1-1-3・2-1-1-2-2・2-1-1-3-2で算定、重複計上)
 活動実績は、毎月ウォーキングの参加者数

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移	指標対応実 績（単位）	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値 に対する達 成度（％）									

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度 担当課評価	B	A								

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性（必要な事務事業であるか）
 - 公共性（公が実施する意味があるか）
 - 妥当性（ニーズに対して投入が適正か）
 - 効率性（結果に至る活動に無駄はないか）
 - 有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）
 - 市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取組みの自己評価
	平成18年度	健康志向でウォーキング人口が増加している。グループ又は地域での健康を意識した組織化された活動への誘導が必要。	ウォーキング推進グループを中心に実施しているが、各地域にも推進グループを広げられる活動への展開を考慮。	年度当初から推進グループが結成され、月1回のウォーキングの会を実施できた。ウォーキングの定着に向けてグループの活動を支援していく。
平成19年度	健康志向で個人や仲間とウォーキングに取り組んでる人が増加している。ウォーキングを入り口とした健康な街づくりに発展できるよう支援していくことが必要。	ウォーキング推進グループを中心に実施しているが、各地域にも推進グループを広げられる活動への展開を考慮。また、ウォーキングに参加できない人への支援も検討。	ウォーキング推進グループが主体的に月1回のウォーキングを開催し、参加者にアンケートを取り参加者の声を聞き、次年度に向け新たな取組みにも視点が移った。	
平成20年度				
平成21年度				
平成22年度				
平成23年度				
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果	結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度	B
平成19年度	A	継続して事業を進めること。
平成20年度		
平成21年度		
平成22年度		
平成23年度		
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		